



# 石神井南中学校 学校だより

平成30年度 第 9 号  
発行日 3月15日(金)  
練馬区立石神井南中学校  
校長 田 邊 克 宣

## 「 年度末を迎えて 」

校長 田邊 克宣

今日、3月11日、「東日本大震災」から8年となりました。すでに報道等でご存じのとおり、2万2,100人を超える犠牲者と、今なお5万1,778人の方が避難生活を強いられているという現状に、心が痛みます。

私は当時、小学校の職員室におりました。

校長の指示の下、教職員で手分けして、すでに下校に入っていた下学年の児童をすぐさま呼び戻し、全員を校庭に避難させ、安否確認をした上で、家庭連絡を取りながら、三々五々迎えに来られた保護者の方々一人一人に児童を引き渡し、寒空の中、震え、泣く子供たちを励ましながら夜を迎えました。その間、地域の高校の生徒が総出で防災毛布を借りに来たり、地域住民に図書室を開放したりといった対応に追われ、最後に、職場から延々歩いてこられたお母様がお見えになったのは夜10時を回った頃でした。それまでじっと我慢していた2年生の女兒が、お母さんの顔を見た途端にわっと泣き出したことを、はっきりと覚えています。その後数週間、町からは灯が消え、店からは物資が消え、各地で同じような状況が起こり、東京も混乱の極みであったことをご記憶されている方も多いことと存じます。

あれから8年。オリンピック・パラリンピックの槌音も高い一方で、復興の現況に思いを馳せるにつけ、もどかしい思いが胸を塞ぎます。当時は幼稚園、保育園から小学校下学年であった子供たちも、今では、他者を助ける側になるまで成長しました。ご家庭でも、防災と減災に関して、家族全員でお話しいただく機会をもってください。

さて、春の訪れとともに、平成30年度も終わりを迎えます。

3年生は、この中学校卒業をもって、義務教育の9年間を終えることとなります。石南中で過ごした日々の学びを胸に、大きな希望と、そして一抹の不安を抱きながら羽ばたいていく生徒諸君に、心より声援を送ります。3年生は、数々の、本当によい伝統を、石南中に残してくれました。

それらを引き継ぐ2年生は、先日のスキー移動教室で、大成功を収めてきました。単に移動教室だけでのことではない、家庭と、学校における日々の生活の姿がそのままに良い形で表れ、主たる活動であるスキー実習でも、それぞれに十分な成果を上げるができました。4月から最高学年となるに当たり、確実な布石を打てました。

1年生は、中堅学年としてふさわしい先輩となれるよう、今、一人一人の心構えをしっかりと作っているところです。4月からの新しい生活に向け、学習、生活、友人との関わり等、怠りない準備をしてくれるものと期待しています。

平成30年度を振り返り、保護者の皆様には、本校の教育活動に対する多大なるご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。また、地域の皆様には、本校生徒の健全育成に惜しみないご助力を賜り、深く感謝申し上げます。

次年度も変わらぬお力添えをお願いし、本年度のご挨拶とさせていただきます。

## スキー移動教室を終えて

第二学年主任 百田 真矢

今年度のスキー移動教室は3月実施のため、雪がゲレンデに残っているか心配をしていました。実際にゲレンデに行ってみると、雪がたくさん積もっていて子どもたちは思いっきりスキー実習に取り組むことができました。1日目はスキー初心者の人にとっては慣れないことの連続で上手く滑れずに苦戦している人がたくさんいました。しかし、2日目になるとインストラクターの方の指導もあり、初心者の人も徐々に滑れるようになり、生徒の笑顔になる場面が増えてきました。そして、3日目になると初心者の生徒もリフトでゲレンデの頂上まで行き、1日目よりも上手に滑っている姿が光っていました。

みんなで支え合い協力し合うことで、初心者の生徒も挫折せずに滑れるようになりました。このような経験は宿泊行事で共に生活することで実現することだと思います。3年生につながる行事になれたと思います。2年生としての生活も残りわずかとなりました。スキー移動教室の経験を生かし、よりよい形で3年生へと進んでいって欲しいと願っています。

